特集1

手の外科を知っていますか？

整形外科または形成外科の中でも、主として腕や手・指を専門的に治療するエキスパート、「手外科専門医」がいることを皆さんはご存知でしょうか。「手外科」という言葉に、なじみのない方がほとんどかと思います。そこで今回は、西能病院の手外科専門医である堂後隆彦医師に、「手外科」について教えていただきました。

教えて！堂後先生❶

放っておかないで！

痛みやしびれも専門医へ

●どんなときに手外科をたずねたらいいの？

手の痛みやしびれが続く場合は、放置せず、手外科専門医のいるクリニックでの受診をおすすめします。関節疾患や変性疾患は、手の使用を控えたり、炎症を抑えることで、一時的には症状がおさまる場合もありますが、放置することによって、自然治癒がうまくいかなくなり、手術が必要となる場合もあります。早期発見・早期治療が大切です。

●手外科専門医でなければならないの？

手には、皮膚、腱、神経、血管、骨などの重要な組織が、複雑に配置されています。それゆえ治療には、特別な機器も必要となります。正しい治療を受けていただくためにも、手の組織を熟知している専門医をたずねてください。保存治療から手術治療まで、考えうる治療の選択肢を、しっかりと患者さんにご説明したうえで、相談をしながら治療を行います。

西能病院／整形外科センター西能クリニック
堂後（どうご） 隆彦（たかひこ）医師
専門分野：手外科、整形外科一般
出身：千葉県
趣味：旅行　最近では、スリランカに行ってきました！

西能病院・西能クリニックの手外科について

「手外科認定研修施設」です

西能病院は、臨床実績が豊富な医療施設として、日本手外科学会より富山県においても数少ない、「手外科認定研修施設」（県内4施設）の認定を受けています。

手外科専門医・堂後隆彦医師が所属しています

県内で認定を受けている手外科専門医師は、当院の堂後隆彦医師を含め、5名のみです。また、堂後医師は早くから手関節鏡（手首の関節の内視鏡）を導入しており、現在、北陸で最も多くの手関節鏡視下手術を行っています。

紹介患者さんを受け入れています

手外科専門医のもとでの治療が必要な、紹介患者さんの受け入れを、地域の医療機関より、積極的に行っております。

一人でも多くの患者さんに、正しい治療を受けていただくためにも、手外科専門医の存在を、広く社会的に認知していただけるよう努めていきます。

手外科とは？

肘から指先までを診療範囲とし、骨折、痛み、しびれや動きの障害について、専門的見地から診療を行う分野です。骨折、切断指などの外傷や、先天奇形の治療を行うことが多かった昔と比べ、最近は、関節が損傷したり、変形したりして生じる“関節疾患”や“変性疾患”と呼ばれるものが増えています。

主な病気としては、腱鞘炎、バネ指、手根管症候群などがあります。

手根管症候群（しゅこんかんしょうこうぐん）　赤い部分にしびれ・痛みが出る

男性より、女性に多く生じる症状で、人差し指、中指を中心に、しびれや痛みが出る病気です。症状が進むと、親指の付け根がやせてくるので、細かい作業ができにくくなります。

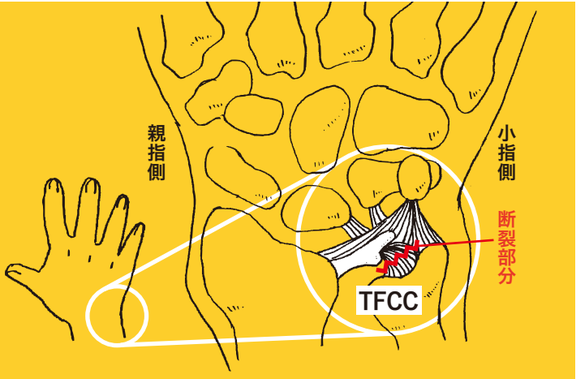
バネ指

手の指に起こる、腱鞘炎です。指が動かしにくく、伸ばすときにひっかかるような、バネ現象がみられます。進行すると、指は曲がったまま、伸びなくなることもあります。

教えて！堂後先生❷

もっと知りたい手外科のコト

TFCC損傷について



TFCC（三角線維軟骨複合体）損傷かも!?

手首の小指側にある三角線維軟骨複合体（TFCC）という組織が損傷されることで、痛みがでる病気です。原因は、けがによるものと、加齢にともなうものに大別できます。

こんな症状ないですか？

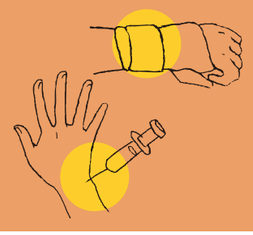
ドアノブを回せない　鍋などの重いものが持てない　タオルを絞ることができない

通常、安静時に痛みはないが、腕を捻ったり、手首を小指側に曲げた時に、手首（小指側）に痛みを感じる。

治療法

基本的には…**保存治療**

1. 固定やサポーターによる局所安静
2. 注射で炎症を抑える

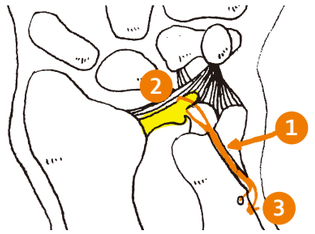


手術治療

多くの場合は、保存治療が有効です。改善しない場合は、手術治療を選択することもできます。MRIや内視鏡検査などで、靭帯の損傷具合を細かくチェックし、関節鏡下縫合術や尺骨短縮骨切り術などを行います。

関節鏡下TFCC断裂縫合術

損傷したTFCCの縫合をする手術です。関節鏡という小さな内視鏡を用いて行うので、**小さい傷で、周囲の組織の損傷を最小限に**手術できます。



1. 関節鏡で見ながら、骨の正確な位置にトンネルを開けます。
2. 三角線維軟骨に縫合糸をかけます。
3. 最後に、縫合糸をトンネルから引き出し、近くに縫合します。

患者さんvoice

手外科の診断を受けて新たな発見が。

●受診のきっかけは？

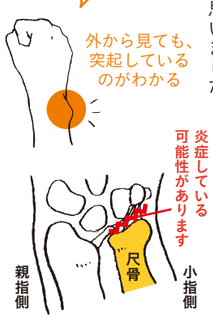
子供のサッカーの試合でテントを立てようとしたときにバランスを崩し、手首が「グキッ」ともものすごい音を出して変な方向に曲がりました。靭帯が切れているかもしれないと思い、休日でも診療している西能クリニックを受診し、堂後先生の診断の結果、TFCCの損傷と判明しました。

●どんな治療法でしたか？

手術と保存治療の2つの選択肢があるとの説明を受け、当初は、装具をつけた保存治療を選択しました。その後、痛みが改善しなかったため、手術することを決めました。手術は1泊2日で、1週間後に抜糸を行いました。今は、腕の違和感もなくなり、快適な日常生活を送っています。

●手外科の診断でわかったこと

堂後先生から、今回のケガをする前から、TFCCが損傷していた可能性があると言われました。私は、※手首の尺骨が人より長いため、炎症を起こしていた可能性があるそうです。学生時代にバレーボールをしていたのですが、手首が痛いのは腱鞘炎だと思っていたので、テーピングをしたり、患部を冷やしたりと自己対処していました。TFCC損傷が原因だったかもしれないので、早めに専門医に診てもらうことが大切だと思いました。



まえかわ あや
前川 綾さん